

IB

magazine

札幌日大高校IBコース生 制作！

IB magazineでは毎月、私たちの活動を発信しています！

今月の内容

- ★ 学校説明会
- ★ 1年生が大活躍！！
- ★ 3年生の最終テスト
- ★ 韓国留学生
- ★ IB生の留学体験記
- ★ My CAS Experience



学校説明会堂々終了！

11月9日（土）を持って、今年度の学校説明会がすべて終了しました。たくさんのご参加ありがとうございました。今年度は、IBコースの紹介を生徒自身が行うという新しい試みに挑戦しました。9月・10月・11月と3度にわたり、IB2年生の諏訪君が代表して発表させていただき、昨年と比べるとかなり多くの方にご興味を持っていただけました。来年以降もこのような活動が行われるのか、はたまたさらに進化していくのか、今後のIBコースに期待が高まります。



IB生の活躍！

IB1年生の田村さんが、11月に行われた第25回全道高等学校英語弁論大会に参加し、4位という成績をおさめました！ 事前に開催された石狩地区大会を3位で突破し、全道大会への切符を手に入れました。田村さんは、「上位2名しか全国に行けないから今回はいけなくて悔しかったけど来年もやらせてもらって、来年も全道進んで全国行けるようにもっと頑張りたいと思ってます。」と話しており、今後の活躍が楽しみです。

Final Exam終了しました！

11月8日約2年間のIBカリキュラムを1期生が修了しました。今回はそんな1期生の4名に①最終試験を受けた率直な感想②後輩へのメッセージを聞いてきました。

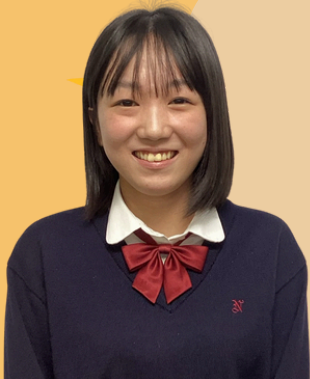
飯川さん

- ①IB としてのカリキュラムが終わったという安堵感が大きいです
- ②常に目標を見据えながらその時その時によりベターな選択をし続けようと努力することが将来の財産にもなるはず、そうと信じて頑張ってください。



二宮さん

- ①いままでたくさんエッセイ書いたり final exam に向けて頑張ってきたから開放感が一番大きいし、今まで頑張ってきてよかったなーって思う！いくつかの学校行事に参加することはできなくなってしまったが、IB を選んだことはいい選択だったんじゃないかなと思えました
- ②IB をやっていく上で多少の犠牲や、思うように伸びない辛いことがあると思うけど少しずつでも積み重ねていくのが大事だなと思う。IB で鍛えた思考力とか書く力はどこに行っても使えるものだから構成とか語彙とか含めて書く練習をたくさんしておくのは大切だと思う。あと、理系の科目は計算法を覚えるんじゃなくてそこに行くまでの理屈をなんとなくでもつかむと応用もできるし効率もいいと思う。



金子さん

- ①私はまだ入試が残っているので、まだ解放された気分にはなれなかったのですが、IB の最後の試験が終わった時は達成感がありました。IB が始まった時は、本当にエッセイが書けるようになるのか不安でしたが、何とかあったなあというのが一番感じたことです。
- ②IB を乗り越えるには計画が1番大事だと思いました。エッセイ関係を余裕を持って進められれば、最終試験勉強と大学出願にもしっかり時間を作れると思います。試験勉強はシラバスをしっかりと読むこと（特に歴史はシラバスが重要だと感じました）、たくさん問題を解いたり、エッセイの練習をするのが大切だと思います！もし何か困ったことがあったら、気軽に話しかけてください！



延原さん

- ①やっと終わったな、という感じはしたが自分からしたらまだ面接入試が残ってたためあくまでも一区切りという気持ち。
- ②IB コースからの進路は、IB ディプロマを用いた入試方式だけではなく自分がここで得た経験を武器にして受ける様々な入試方式があります。人によっては、小論文の対策をしなければならなかったり、共通テストの勉強をしなければならなかったりすると思います。自分自身が積極的に動く必要があります。希望の進路実現のための複数のアプローチを自分自身で用意することを忘れずに、未来の自分のためにここで行える多種多様な活動に邁進してください！どこにいても、札幌日大のIBコースの生徒のみんなを応援しています！



IB生の留学体験談 第2弾



前回同様今回も引き続きIB生の留学体験談を紹介していきます。
今回紹介するのはニュージーランドへ行ったKさんです。

・どのような留学を行ったか

現地の大規模農業に興味があり訪れました。滞在中は現地の中高一貫校にお世話になり、英語（留學生用）、数学、歴史、体育、音楽、美術を受講しました。

・思い出に残っていること

ラグビーのオールブラックスとアルゼンチンのチームの試合を見に行ったことが一番印象に残っています。結果はオールブラックスが負けてしまいましたが大変有意義な時間を過ごせました。

・将来に生かしたいこと

他国とは言えど、世界は繋がってるんだなと思いました。出身国は違っても、違う価値観を持っているというだけであり、1人の人間なんだなと、海外への理解が大変深まりました。



・メッセージ

留学が人生最大の転機になることとか、人生で1番楽しかったことになるとか、そんなことは全くないと私は思います。もちろんそうなる人も居るだろうけど、留学は、生活の延長線にあったなと感じました。言語という壁が時には牙を向いてきたけど、別にそれが特別大きな障壁になるってことも、そんなにたくさんありませんでした。私はホストファミリーや、学校のバディ、日本からの他の留学生、現地のエージェントさんに恵まれたという自負はあるので、また留学したいとは特別思うこともないけど、関わった方々とはまた会いたいなとは思っています。もしお金と時間に余裕があるなら、検討してもいいのかもしれない。ちゃんとエージェントさんを通して、するべき準備とマナーさえ出来てれば、楽しい留学になると思います。もちろん、環境とかも色々あると思うのですが、そういう側面は事前に調べておくべきだと思います。あと、風邪だけは気をつけましょう。着いてから副鼻腔炎と中耳炎になって大変苦労しました笑。

My CAS Project IV

今回も始まりました「My CAS Project」！

このコーナーでは、実際のIBコース生のCASを紹介していきます。IB生の活動の中で1番の目玉でもあり、個性が出る「CAS」。詳しい内容については5月号をご覧ください。

今回、第四回の「My CAS Project」を担当するのはIBコースの一員である2年生の清水さんです。今回はどんなCASを紹介してくれるのでしょうか。



札幌日本大学高等学校 国際バカロレア (IB) コース 2年 清水さん

インタビュアー どのようなCASを行っていますか？

清水 私は「北海道中国武術倶楽部」というチームに所属して中国武術を行っているのですがそのチームで地域のイベントに参加し、地域を盛り上げることをCASにしています。

インタビュアー なぜそのようなCASを行っているのですか？

清水 小学校6年生から中国武術を行っており、IBコースに入る際にもイベント出演をCASに使うことができると考えていました。またイベントに出ることをCASにすることで練習などへのモチベーションも上げることができています。

インタビュアー CASを行なっている中で一番楽しいことはなんでしょうか？

清水 やはり練習の成果を十分に発揮できたことだと思います。動きを自分で考えることも多くあるので、その自分で考えた動きを練習して本番で上手く発揮できた時に、達成感を感じることができています。

インタビュアー 中国武術をCASとして行うことで、モチベーションなどに変化はありますか？

清水 基本中国武術の練習はもちろん行くのですが、勉強が忙しくなった時には、CASの活動にしたんだと考えることで、モチベーションが上げることができています。

インタビュアー IBの勉強と中国武術の両立について大変なことはありませんか？

清水 日々勉強と武術のバランスを考えると、勉強と中国武術のどちらかが忙しくなったら休むという基準を持って取り組んでいます。ですから基本的には自分の武術が原因で休むことはないようにしています。また、同じ倶楽部の日大生で勉強も武術もどちらも上手く両立していた先輩の背中を追って頑張っています。

インタビュアー 今後の活動の目標はなんでしょうか？

清水 来年7月に、「全日本武術太極拳選手権大会」があるのでその大会で、今までCASで行なっていたってきたイベントでの経験を活かして、入賞できるように頑張っていきたいです。その後は、IBの勉強に専念していきます。

インタビュアー 最後に伝えたいことはありますか？

清水 CASでは、活動行う中で自分と向き合い、将来何をやりたいか考えること時間ができます。今後IBコースに入る方は、自分が好きなことと将来を結び付けてCASを行うと非常にいい経験が得られますよ。

インタビュアー どうもありがとうございます。



札幌日大IBコース
公式ホームページ

